

中学生が地域と連携し、 地域との協働による環境保全活動

熊本市立天明中学校生徒会

1. 学校の概要

(歴史)

本校は、昭和22年に熊本県^{ほうたく}飽託郡に設立された^{くら}倉山中学校と^{ほうなん}飽南中学校とが、昭和32年に統合した学校である。その後、平成3年に飽託郡が熊本市に合併し、現在の熊本市立天明中学校となった。

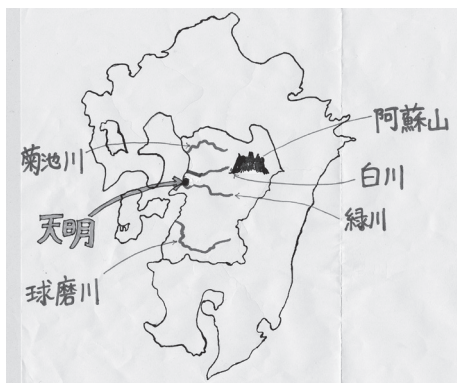


学級数10学級（内2学級は特別支援学級）、生徒数239名（平成27年5月7日現在）の、熊本県では小規模に属する公立中学校である。校区は4つの小学校区からなっている。

(地理的位置づけ)

熊本県は九州の中央に位置し、活火山で巨大な規模を誇るカルデラの阿蘇山がある。

熊本市は県庁所在地であり、阿蘇山をはじめ九州山地に降った雨が地下に浸透し、豊かな地下水として湧出する場所である。人口74万人の市民が飲む水道水は、ほぼ100%地下水によって賄われているただ一つ



有明海から雲仙を望む



阿蘇・九州山地を望む

の政令指定都市である。

熊本県には、北から^{きくち}菊池川、^{しら}白川、^{みどり}緑川、^{くま}球磨川の4本の大きな河川がある。どの川も阿蘇山を含む九州^{せきりょう}脊梁の山地にその源を発している。

本校区は、熊本県中部を流れ^{ありあけ}有明海に注ぐ緑川の河口部にあたる。

朝日は、九州山地から昇り、阿蘇山の噴煙も遠くに見ることができる。夕日は対岸の長崎^{しまばら}島原の^{うんぜん}雲仙岳に沈む。

干満の差が大きい有明海は遠浅の海で、古くから海苔の養殖やアサリ漁等が続けられてきた。

校区は川と海に隣接するとともに田園地帯が豊かに広がり、これらの土地は古く鎌倉時代からの干拓事業によって広げられてきたものである。

米をはじめ、おいしいトマトやメロン、ナスの出荷が盛んである。



地域で長年取り組んでおられる方からの励まし 海浜清掃時 平成27年4月



海浜清掃時の記念写真 平成26年4月

生徒の活動② 【下草刈り】

海の変化・荒廃を憂い、平成6年から地元有志によって山に植林をする計画が始まった。漁業関係者を中心にさまざまな職種の人や、老若男女が集った。

場所は、天明地域から車で3時間近くかかる緑川上流で、その森は「漁民の森」と名付けられた。



「ボランティア わたしたちにできること④ ゆたかな自然を守るー環境を考えるー」ポプラ社 1996年4月で紹介される

翌年の平成7年には、「子どもの森」として同じく車で2時間余の上流に植林が行われた。

左下掲載資料は、その年の夏に植林した木々の成長を促すため、周辺の下草を刈る活動をしたことが紹介されたものである。「子どもの森」と書かれた銘板は写真の中学生の手によって彫られたものである。

現在は、この写真に写る子どもたちの子どもが小中学生になり後継者として育ってきている。

「漁民の森」「子どもの森」「未来の森」「有明の森」等々と森づくりは続いている。

現在の森づくりは、植林から植林以後の成長を促進するための「下草刈り」に力点が置かれている。

天明中学校生徒会では、毎年希望者を募り夏休みの期間を利用し実施している。

(過去5年間)

平成22年 参加者40名

平成23年 参加者35名

平成24年 参加者40名

平成25年 参加者約30名

平成26年 参加者約70名

平成27年 生徒会内で参加者募集作業中



最河口部の本校から最上流部の現地へバスで移動 平成26年7月



生い茂る草を専用のカマで切り払う作業中 平成26年7月

下草刈りで森と海守れ

熊本市の中学生 山都町で体験



生い茂ったカヤを刈る天明中の生徒ら＝山都町

山都町神ノ前の水源涵養林「天明の森」で1日、熊本市の天明中の生徒が、緑川流域の環境保全に取り組むNPO法人「天明の会」などと植林してきた一帯の下草刈りを体験した。

森は国有林内にある植林地(約3・6ヘクタール)の一角にあり、天明水の会などが取り組む「漁民の森」の一つ。十数年前から植樹が始まり、クスギやヤマモモ、モミジなどの広葉樹が広がる。体験は、自然保護への関心などを高めようと天明中が毎年実施。

この日は生徒69人と天明水の会メンバーらが参加し、木々の間に生い茂った高さ1〜2メートルのカヤを大きな鎌で刈り取ったり、木に巻き付いたカスミラを取り払ったりして汗を流した。

初めて参加した3年の馬場峻也君(14)は「森と海のつながりを普段は意識しにくいけど、とにかく刈りたい」と話した。(林田貴広)



平成26年8月13日 熊本日日新聞で紹介された記事

若者コーナー

下草刈って豊かな海へ

川上十和子15歳 中学生

(熊本市)

夏休みに、下草刈りの体験をしました。下草刈りとは、森の木の成長をさげざっている草を、専用の大きな鎌で刈っていく作業のことです。夏休み前、生徒会からボランティア活動として呼びかけがあり、友達と一緒に参加しました。

校区は、緑川の河口で有明海に面しています。下草刈りをする森は、学校から車で2

時間近く緑川沿いにさかのぼった山の中です。漁民の人たちがボランティアで、山に木を植えたのが始まりだそうです。海が豊かになるためには、山を豊かにする必要があるとの考えからです。

私の家も海に関連した仕事をしています。草は、私の身長近くまで生い茂っていました。最初はなれなくて注意を受けていました。後からはどんどん広い面積が刈れるようになり夢中になりました。初めての体験でしたが、達成感を味わうことができた楽しい一日でした。

平成26年9月8日 熊本日日新聞で紹介された記事



有明海の海苔養殖 使用されているたくさんの竹杭

作業を行っている。真夏の暑い日中ではあるが、汗をたくさん流しながらがんばっている。

(過去5年間の参加者)

平成22年 参加者35名

平成23年 参加者30名

平成24年 参加者40名

平成25年 参加者約30名

平成26年 参加者約70名



これから焼き始める「火入れ」の様子 平成26年7月19日

生徒の活動③ 【竹炭作り】

本校校区は海苔養殖が盛んであり、そこでは大量の竹杭が使用される。

古くなった杭は廃棄されていたが、平成18年に地元有志が竹炭としての再利用を考え炭焼き窯を作った。できた竹炭を校区内の河川に沈め、河川の水質浄化を図っている。

中学生たちは、毎年夏休みに竹を窯に入れる「窯入れ」の作業と、焼き上がった炭を取り出す「窯出し」の



焼き上がった炭をネットに入れ、用水路に敷設した。平成26年7月26日



窯入れ時の記念写真 平成26年7月19日

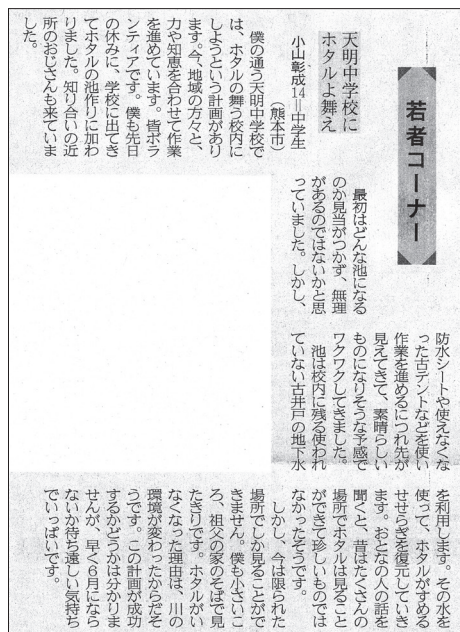


平成26年9月8日 熊本日日新聞で紹介された記事

生徒の活動④

【ビオトープ作り・ホタルの池作り】

使用しなくなった足洗い場を、ビオトープとして再活用するようにした。写真は改造作業の初期である。土や石、流木、天明地区の河川に育つ植物を入れ、天明地区に棲む魚類を観察できるようにした。(現在は特別支援学級の生徒により管理されている。) 昼休み等において、生徒が生き物を眺めながら憩う場所にもなっている。



平成27年3月15日 熊本日日新聞で紹介された記事

また校内には、地下水を汲みだせる古井戸がある。それを利用し、ホタルが棲む池を製作中である。近所の方をはじめ、地域で関心を持つ方、保護者で工事技術を持つ方等の協力を得て、進行している。おかげで地域全体が注目するものになってきている。



ホタルの池作り 防水シート張り 平成26年2月



ほぼ完成し、中ではクレソンが繁茂している。 平成27年4月



学校の近所の方々と共にホタルの幼虫の放流 平成27年4月

4 まとめ

それまで「点」の状態だった地域における環境保全活動が、平成4年に地域有志の方々がボランティアグループを立ち上げられ「線」となった。

中学校は平成6年から約20年間、それら地域の方々の動きにつながりながら、環境保全に関するさまざまな体験をし、活動を支援してもらっている。「面」としての活動に広がってきていると、考えてもよい。

身の回りの自然環境に繊細なアンテナを張り、そしてすばらしい実践力・行動力によって思いや願いを具体化し、おおらかで寛容性・柔軟性のある思考・姿勢によって輪を広げられている地域の方々の功績に負うところが何よりも大きい。

地域の中で生まれ、地域の中で育ち、今後は広く社会で活躍していく子どもたちである。学校の職員は異動していくものの、地域の力は懐の深い大きな力となって子どもが育つ土壌となり環境となっていく。

天明中学校生徒会は、会員として在籍する3年だけの期間であるが、先輩たちの姿を見ながら計画を提案し、仲間と呼びかけ、その折々で形に変化はありながらも後輩へとその精神が継承されていっている。

このたび、本校生徒会の永年の取り組みを評価していただく機会を得たことは、本校に在籍した生徒たち



平成26年度活動マーク

若者コーナー

環境Tシャツ
体育大会輝く

岡崎莉久15 中学生
(熊本市)

僕たちの中学校の体育大会は少し変わっています。全校生徒が体操服の代わりに「環境Tシャツ」というのを着て参加します。このシャツは、環境の保全推進のために、代々作られてきたもので

す。胸には生徒が考えた文字と絵がデザインされています。「みんなで守ろう！ 地域で守ろう！ ！」という言葉と、地球と大きな木と人間とが、絵としてかわいらしく組み合わされています。僕の住む地域では、環境ボランティアの活動がとて盛んです。僕の家はトマト農家です。おいしさとともに環境を考え

た農業をしています。地域でも、海の環境を守るため山に植林をしたり、ノリ養殖で使った竹の廃材を炭焼きにしたりして、それを川に流して浄化に取り組んでいます。僕たちも、その体験をさせてもらっています。僕は体育委員長をしていて、今年は3年生で最後の体育大会でした。いろんなところでみんなが努力し、協力し合って最高の体育大会になりました。赤、青、黄の3団に分かれた3色の環境Tシャ

ツは運動場でとても輝いて見えました。これからは、地域の中で輝く活動をしたいと思いました。

平成26年5月30日 熊本日日新聞で紹介された記事

の大きな喜びとなり誇りとなるものである。これまでお世話になった地域の方々への恩返しの機会にもなったことを報告し、感謝の意を込め、まとめとしたい。

熊本市立天明中学校生徒会